

名称 カワラタケ

他名等 雲芝 (うんし)

部位等 菌糸体

備考 子実体は食

学名 (科名) *Coriolus versicolor* (Fr.) Quel (Polyporaceae) カワラタケ科

其原植物和名等

医薬品として使用実態があるか Yes

クレスチンを産生する

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は

Coriolan-33 (Antibiotic compounds) を産生する 本化合物のLD50は、2g/kg (oral, mouse)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか]

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

Protein-bound polysaccharide; biological response modifier having immunostimulant and anticancer properties: krestin クレスチン免疫賦活剤

重要文献

CA 956件

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook

評価 **B**

免疫賦活剤クレスチンの産生菌糸体である。

名称 カンショウコウ

他名等

部位等 根

備考 英名 spikenard

学名(科名) *Nardostachya jatamansi* DC Indian Nard (Valerianaceae) (オミナエシ科)

其原植物和名等 <甘松香> Indian herb

医薬品として使用実態があるか No

毒性データ (LD50 等)

essential oil i.p. LD50 900mg/kg, mouse, i.v. dog, LD50: 93mg/kg (劇薬相当)

; extract i.p. rat LD50: 353mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

精油、セスキテルペン

主要な生理活性

スパイナードはアロマテラピーでは最も重要な精油のひとつ

鎮痛剤、芳香性健胃、薫香料

重要文献

その他注意すべき点

emmenagogues/ uterine stimulant 子宮刺激剤

Botanical Safety Handbook 2b Not to be used during pregnancy

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

その場合の化合物情報

評価:A

精油の毒性 (i.v. dog, LD50=93 mg/kg) が劇薬相当。

名称 カントウカ

他名等 フキタンポポ

部位等 花蕾 花：款冬花 葉：款冬花

備考 leaf, flower は食

学名 (科名) *Tussilago farfara* L. (Compositae) キク科

其原植物和名等 Coltsfoot leaf (Com E)

フキタンポポ、ファルファラ

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

毒性データ (LD50 等)

oral, rat TDLo 4800g/kg (Japanese J. of cancer Res.)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

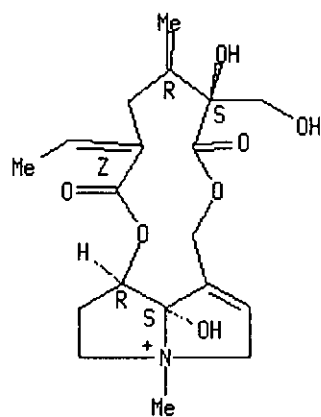
含む場合その化合物は

Senkirkine/Tussilagine (Pyrrolizidine alkaloid) necine (pyrrolizidine alkaloid)

tumorigene: tumorigenic data intraperitoneal rat, TDLo 300|mg/kg

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等



Senkirkine

主要な生理活性

腫瘍形成

その他注意すべき点

contraindications: pregnancy, nursing (Com E)

Botanical Safety Handbook 2b, 2c not to be used during pregnancy and nursing 2d: long-term use is not recommended

評価:A

腫瘍形成作用をもつ有毒アルカロイド (Senkirkine, Pyrrolizidine alkaloid: tumorigenic data, intraperitoneal rat, TDLo 300|mg/kg) を含む。ComE 及び BSH での記載に禁忌がある

名称 カンボウイ

他名等 漢防己、粉防己

部位等 茎・茎根

備考

学名 (科名) *Stephania tetrandra* S. Moore, Menispermaceae, ツヅラフジ科

Sinimenium acutam (日局 II) (オオツヅラフジ、漢防己)

其原植物和名等 シマハスノハカヅラ

医薬品として使用実態があるか 以前局II

毒性データ (LD50 等) i.p. mouse LD50 113mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は tetrandrin LD 50 41.3 mg/kg i.p. mouse, dimethyltetrandrine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

名前の混乱。使用注意。

Stephania tetrandra (シマハスノハカヅラ) 粉防己、土防己、漢防己

Aristolochia westlandi 防己、木防己、水防己

A. heterophylla 防己、青木香

Cocclus trilobus (日局 II、木防己、幹、根)

Botanical Safety Handbook class 1

評価:A

劇薬 tetrandrin (LD 50=41.3 mg/kg i.p. mouse) を含むこと、及び aristolochic acid を含むオオツヅラフジとの区別が難しいこと。

名称 カンラン

他名等 橄欖

部位等 果実

備考

学名(科名) *Canarium album* Reusch, カンラン科 (広東、広西、福建、四川、雲南、台湾で産, 中薬大辞典)

其原植物和名等 white Chinese olive 木敢・木覧

医薬品として使用実態があるか No

毒性データ (LD50 等) *Canarium manii*, *C. bengalense* : i.p. mouse 1g/kg 以上

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

stilbene gallic acid *Zhongguo Zhongyao Zazhi* (1999), 24(7), 421-423

triterpenes: *Planta Medica* (1989), 55(1), 44-7

主要な生理活性

Antimicrobial activity: *Shipin Kexue* (Beijing) (2001), 22(3) , 82-84 8 (Chinese)

重要文献

CA13件ヒット Fatty acid composition of the seed oil of *Canarium album* Reusch: *Yukagaku* (1976), 25(9), 561-2

その他注意すべき点

仁は橄欖仁として食用。月餅(げっぺい)に入っている

Botanical Safety Handbook class 1

評価:E

仁、果実とも食の実績があることと、同属植物の LD50 値 (*Canarium manii*, *C. bengalense* : i.p. mouse 1g/kg 以上)。

名称 キササゲ

他名等

部位等 果実

備考 アメリカキササゲ、*Catalpa americana*

学名(科名) *Catalpa ovata* G. Don, *Catalpa bungei* C.A. Meyer (Bignoniaceae) ノウゼンカヅラ科 (以上局方)

其原植物和名等 キササゲ (局方)、シジツ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等) *C. longissima* LD₅₀ 10g/kg i.p. mouse

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

Catalposide, the major iridoid glycoside isolated from the stem bark of *Catalpa ovata* G. Don

(Bignoniaceae): *International Immunopharmacology* (2002), 2(8), 1173-1181

Conjugated trienoic acid glycerides, conjugated polyunsaturated fatty acid glycerides : カネボウ特許 catalpol,

主要な生理活性

Cytotoxic effect (conjugated trienoic fatty acids) *Lipids* (2001), 36(5), 477-482

利尿

重要文献

Mutation Research: 97 81 (1982)

CA 80件ヒット

Studies on the constituents of Catalpa species: Natural Medicines (Tokyo, Japan) (2001), 55(3) , 147-148,

Natural Medicines (Tokyo, Japan) (2001), 55(2) , 64-67: *Chemical & Pharmaceutical Bulletin* (2001),

49(6), 732-736 東北薬大

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 記載なし

評価: B

局方収載医薬品である。

名称 キッピ

他名等 橘皮

部位等 果皮

備考 国内でキッピとして流通しているのは、*C. sinensis*, *C. reticulata* で陳皮と同類

学名 (科名) *Citrus tachibana* Tanaka 又はその他近縁植物の成熟した果皮 (局外生規) (Rutaceae)

ミカン科

其原植物和名等 タチバナ

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

毒性データ (LD50 等) *C. tachibana* では、データなし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

flavonoids Chemotaxonomic studies on the genus *Citrus*. I. Distribution of flavones in the subgroup *microcarpa*: Chemical & Pharmaceutical Bulletin (1987), 35(7), 3025-8

精油、フラボン

主要な生理活性

芳香性健胃、発汗、去痰、浴湯料、漢方：健胃，鎮咳，鎮吐

重要文献

CA 23件ヒット

Phylogenetic relationships among selected *Citrus* germplasm accessions revealed by inter-simple sequence repeat (ISSR) markers: Journal of the American Society for Horticultural Science (1998), 123(4), 612-617

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 記載なし

評価: E

特に問題が有る成分も含まれておらずまた、国内でキッピとして流通しているものは、*Citrus tachibana* ではない。

名称 キナ

他名等

部位等 樹皮・根皮

備考

学名 (科名) *Cinchona succirubra* Pavon et Klotzsch, *C. ledgeriana* Moens (Rubiaceae, アカネ科)

其原植物和名等 cinchona bark (英名)

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

毒性データ (LD50 等) 115 mg/kg, mice (i.p.)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は

アルカロイド総量 6-15%

キニーネ (局)、キニジン (局)、シンコニジン (局)、シンコニン

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

Cinchonidine (Quinoline alkaloid) Quinine (Quinoline alkaloid)→cinchona spp)

主要な生理活性

抗マラリア活性、解熱鎮静、平滑筋刺激、抗不整脈、苦味健胃

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 2b not to be used during pregnancy, contraindicated in gastrointestinal ulcers, not exceed recommended dose

評価:A

医療用重要なアルカロイド (キニーネ (局)、キニジン (局)、シンコニジン (局)) を多量 (6-15%) に含む。

名称 キョウカツ

他名等 羌活

部位等 根茎、根

備考

学名 (科名) *Notopterygium incisum* Ting ex H.T. Chang, *M. forbesii* Boissieu (Umbeliferae) セリ科
其原植物和名等

医薬品として使用実態があるか Yes 局方 (14局第一追補)

毒性データ (LD50 等) LD50 2830 mg/kg oral mouse

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

coumarins Yaoxue Xuebao (1995), 30(4), 274-9, Chemical & Pharmaceutical Bulletin (1990), 38(9), 2498-502

pregnenolone (女性ホルモン用作用あり) を0.02%含む 近大薬久保、松田ら

pregnenoloneの TDL0, 20 mg/kg

主要な生理活性

antibacterial activity Natural Medicines (Tokyo, Japan) (2002), 56(3), 113-116

cytotoxicity Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry (1999), 63(8), 1501-1502

重要文献

中国語文献多数 CA24報

その他注意すべき点

起原植物の混乱、独活との混乱、

Botanical Safety Handbook class I

評価:A

局方収載医薬品であり、女性ホルモン用作用をもつ pregnenone (TDL0, 20 mg/kg) を比較的多量に含む。

名称 キョウニン

他名等

部位等 種子

備考 apricot kernel

学名 (科名) *Prunus armeniaca* L (ホンアンズ) *Prunus armeniaca* L.var.ansu Maxim. (アンズ)

(Rosaceae) バラ科

其原植物和名等 ホンアンズ アンズ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等) TDL0 300mg/kg woman, oral

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は

Prunasin (Cyanogenic glycoside) Reproductive effects, oral , hamster [TDL0 177 mg/kg]8D preg

amygdalin

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

鎮咳、去痰

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 3 (seed) to be used only under the supervision of expert

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

その場合の化合物情報 BSHの記述は、要指示医薬品と考えられる

評価:A

局方収載医薬品であり、青酸配糖体 (Prunasin) を含むこと及び要指示医薬品に相当する BSH での使用上の注意。

名称 キンリュウカ

他名等 ストロファンツス

部位等 種子・木部

備考

学名 (科名) *Strophanthus caudatus* ? この学名がキンリュウカ (金竜花) と対応するのか (ネット上で一件だけあり) キンリュウカ属 キョウチクトウ科 *S. gratus*, *S. preussii* が一般に薬用植物としてでいる。(Apocynaceae) キョウチクトウ科

其原植物和名等 ヤギツノキョウチクトウ

医薬品として使用実態があるか No

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は

strophantidin cat LD100 0.337 mg/kg i.v. strophantin rat i.v. LD50 15mg/kg 強心配糖体

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

強心配糖体

主要な生理活性

強心

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook なし

評価:A

劇薬相当の活性を持つ強心配糖体及びアグリコン (strophantidin: cat LD100=0.337 mg/kg i.v.; strophantin: rat i.v. LD50=15mg/kg) を含む。

名称 グアシャトンガ

他名等

部位等 葉

備考

学名 (科名) *Cajearia sylvestris* (Flacourtiaceae) イイギリ科

其原植物和名等

医薬品として使用実態があるか

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

Antitumor principles from casearia sylvestris (Flacourtiaceae)---- Itokawa, H. et al., Chem. Pharm. Bull. 36(4) 1585 (1988).

New antitumor principles ----; Itokawa, H., et al., Chem. Pharm. Bull. 38(12) 3384-3388

Structure and cytotoxic activity of casearins,----- Morita, H. et al., Chem. Pharm. Bull. 39(3) 693-697

その他注意すべき点

グアシャトンガは、類縁の同族植物から、podophyllotoxin (抗悪性腫瘍剤、生薬 ポドフィラムの活性成分) 類縁体がかなりの量単離されていること、もともと、抗腫瘍活性がある植物であること、エタノール抽出液は、マウスのSarcoma 180腹水ガンにたいし、100mg/kg/dayのdoseで強い活性(87%阻害)また、単離された成分の多くは、Chinese hamster の lung cell (V-79cell) に対して、LD50が1 μM以下の強い活性を示していることから、H14年11月に専ら医薬品と判断された。

Botanical Safety Handbook 記載なし

評価:A

上記より。

名称 クジン

他名等 クララ

部位等 根

備考 生薬名 クジン (苦参)

学名 (科名) *Sophora flavescens* Aiton (Legminoceae) マメ科

其原植物和名等 クララ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等) i.p. mouse LD50 301mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は

matrine ammothamnine (Quinolizidine alkaloid) 18 mg/kg ,mice, i.p.

oxymatrune, sophoranol, anagyrene, methylcytisine, baptifoline, sophoracarpine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

matrine oxymatrune, sophoranol, anagyrene, methylcytisine, baptifoline, sophoracarpine

主要な生理活性

解熱、利尿、駆虫、苦味健胃、消炎止瀉、たむし、水虫、ただれ

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 1 occasional side effects such as mild dizziness, nausea, vomiting and constipation may occur

評価:A

局方収載医薬品であり、有毒アルカロイド (matrine ammothamnine, Quinolizidine alkaloid, LD50=18 mg/kg ,mice, i.p.) を含む。

名称 クスノハガシワ

他名等

部位等 樹皮

備考 果実の表皮に生じた腺毛、束毛からカマラ（駆虫剤、小城製薬輸入承認あり）がとれる。

学名（科名） *Mallotus philippinensis* Muell.Arg. (Euphorbiaceae) トウダイグサ科アカメガシワ属
（奄美諸島低地帯 常緑広葉樹）

其原植物和名等

医薬品として使用実態があるか

毒性データ（LD50等） oral, rat, TDL0 1.6g/kg 8d pre, i.p. mouse LD >1g/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか 不明

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No
主要な二次代謝産物等

polyphenol, dimeric cahlcone; *Phytochemistry* (1998), 48(8), 1423-1427, 岐阜薬大

Kamaladiol-3-acetate, *Phytochemistry* (1993) , 32(2) , 407-9

prenylated flavanoids *Indian Journal of Chemistry, Section B: Organic Chemistry Including Medicinal Chemistry* (1988), 27B(3) , 238-41

rottlerin

主要な生理活性

育毛剤原料、抗アレルギー活性

重要文献

1) Anti-allergic agents from natural sources (4): Anti-allergic activity of new phloroglucinol derivatives from *Mallotus philippensis* (Euphorbiaceae), Daikonya, Akihiro; Katsuki, Shigeki; Wu, Jin-Bin; Kitanaka, Susumu, College of Pharmacy, Nihon University, Chiba, 274-8555, Japan, *Chemical & Pharmaceutical Bulletin* (2002) , 50(12) , 1566-1569

2) Chemical constituents and biological activity of genus *Mallotus* (Euphorbiaceae) *Foods & Food Ingredients Journal of Japan* (1997), 171, 68-75, Arisawa, Munehisu

3) Tannins and related compounds. LXXXVIII. Isolation and characterization of hydrolyzable tannins from *Mallotus japonicus* (Thunb.) Mueller-Arg. and *M. philippinensis* (Lam.) Mueller-Arg 九大薬西岡先生、*Chemical & Pharmaceutical Bulletin* (1989), 37(11), 2940-7

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook なし

評価:C:

E 候補だが、アルカロイドが入っていないかどうかの確証がない。

名称 グラビオラ

他名等 サーサップ、トゲバンレイシ、オランダドリアン

部位等 種子

備考 果実は「非医」

学名(科名) *Annona muricata* L. (Annonaceae) バンレイシ科

其原植物和名等 トゲバンレイシ

医薬品として使用実態があるか No

毒性データ (LD50 等) extract : i. p. LD50 178 mg/kg, mouse

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は

annomuricatins A and B (cyclic peptide) anomuricine (benzylisoquinolin type)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

annocatalin, annohexocin, anomuricatins A and B, anomuricin A, annopentocin A, anomuricine, cohibins A-D, coronin, Donhexocin, epoxyurin A, muricatacin, muricatalicin, muricatalin, muricins A-E

主要な生理活性

95%エタノールエキスはherpes simplex virus-1に対して抗ウイルス活性を示した。また、本植物より単離されたacetogeninsはヒト肝細胞に対し細胞毒性を示した。

重要文献

1) C-M. Li, *et al.* : *Yunnan Zhiwu Yanjiu*, **17**, 459-462 (1995)

2) M. Leboeuf, *et al.* : *Planta Med.* **42**, 37 (1981)

3) P. Padma, N. P. Pramod, D. P. Thyagarajan, R. L. Khosa : *Journal of Ethnopharmacology*, **61**, 81-84 (1998)

4) C-C Liaw, F-R Chang, C-Y Lin, C-J Chou, H-F Chiu, M-J Wu, Y-C Wu : *J. Nat. Prod.*, **65**, 470-475 (2002)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載

評価:A

アルカロイド成分を含有しているため安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 グリフォニア・シンプリシフォリア

他名等

部位等 種子

備考

学名 (科名) *Griffonia simplicifolia* L. (Leguminosae) マメ科

其原植物和名等 グリフォニア・シンプリシフォリア

医薬品として使用実態があるか No

毒性データ (LD50 等) 5-hydroxytryptophan : 243mg/kg (LD50, rat, ori)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は

5-hydroxytryptophan, griffonin

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

griffonilide, 5-hydroxytryptophan, griffonin

主要な生理活性

5-hydroxytryptophan はセロトニンの前駆物質として抗うつ薬の治療に試用されたことがある。またある種の不随意運動 (myoclonus) にも有効である。

重要文献

1) D. Dwuma-Badu *et al.* : *J. Nat. Prod.*, **39**, 213 (1976)

2) 南山堂医学大辞典 : 1755

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載

評価:A

5-hydroxytryptophan の LD50 が劇薬相当のため安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 ケイガイ

他名等 荊芥穂、アリタソウ、schizonepeta spike

部位等 全草（日本薬局方では花穂）

備考

学名（科名） *Schizonepeta tenuifolia* Briquet (Labiatae) シソ科

其原植物和名等 ケイガイ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

配合処方：駆風解毒湯、荊芥連翹湯、荊防敗毒散、五物解毒散、十味敗毒湯、消風散、清上防風湯、川弓茶調散、治頭瘡一方、当帰飲子、防風通聖散（11 処方）

毒性データ（LD50 等）

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

d-menthone, *l*-pulegone, *l*-isomenthone, *d*-limonene, α -, β -pinene, camphene, piperitone, caryophyllene, β -elemene, β -humulene, schizonepetosides A-E, apigenin-7-glucoside, luteolin-7-glucoside, hesperidin

主要な生理活性

精油分画は酢酸ライジング法で鎮痛、抗炎症作用を示し、この活性成分は鎮痛作用は*d*-menthone、抗炎症作用は*l*-pulegoneであると報告されている。発汗、解熱、止血、駆風作用や腫毒を除去するなどの作用があるといわれ、単味もしくは処方中に応用される。

重要文献

- 1) 藤田真一、藤田安二：薬誌 **93**, 1622 (1973)
- 2) H. Sasaki, H. Taguchi, *et al.* : *Chem. Pharm. Bull.*, **29**, 1636 (1981), **34**, 3097 (1986)
- 3) 山原篠二ら：薬誌 **100**, 713 (1980)
- 4) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：459

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：無記載

評価:B

アルカロイド等は含有していないが、局方収載生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品と考えられる。

名称 ケシ

他名等 opium poppy、アヘン

部位等 全草（発芽防止処理された種子・種子油は除く）

備考 発芽防止処理された種子・種子油は「非医」

学名（科名） *Papaver somniferum* L. (Papaveraceae) ケシ科

其原植物和名等 ケシ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ（LD50等）

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は

morphine, thebaine, codeine, papaverine, noscapine, protopine, cryptopine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか Yes

対象化合物等

morphine, thebaine, codeine（麻薬）

主要な二次代謝産物等

morphine, thebaine, codeine, papaverine, noscapine, protopine, cryptopine, meconin, meconic acid

主要な生理活性

モルフィンは中枢神経系に作用し、選択的に痛覚を鈍麻させ、呼吸を抑制する。大量に用いると大脳の機能が麻痺し、陶酔、幻覚を起こし、睡眠、昏睡状態になり、さらに大量で小脳、延髄、呼吸中枢の麻痺によって死に至る。そのため少量を鎮痛、麻酔、鎮咳薬として用いられるが、連用による習慣性が非常に強く、慢性中毒を起こしやすいため麻薬の指定を受け、麻薬法によって一般の栽培、所持、使用は禁止されている。

重要文献

1)新訂牧野和漢薬草大図鑑：143

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：class 1. (seed)

評価:A

麻薬成分を含有し、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 ケンゴシ

他名等 牽牛子、カガミグサ、カホバナ、ユフカゲグサ

部位等 種子

備考 葉・花は「非医」、

学名(科名) *Pharbitis nil* Choisy (Convolvulaceae) ヒルガオ科

其原植物和名等 アサガオ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

pharbitin (樹脂配糖体), ipurolic acid, gibberellenic acid, gibberellin derivatives, pharbic acid

主要な生理活性

煎剤をモルモットに経口投与した場合、3～4時間後に排便量が増加することが報告されている。利尿、殺虫をかねた峻下剤、緩下剤として、下半身の水腫、尿閉症などに用いる。

重要文献

1) H. Okabe, T. Kawasaki : *Tetrahedron Lett.*, 3123 (1970)

2) H. Ito : *Mie Med. J.* **14**, 47 (1964)

3) 新訂牧野和漢薬草大図鑑 : 433

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載.

評価:A

樹脂配糖体の pharbitin は峻下作用があり、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 ゲンジン (1)

他名等 玄参、ゴマノハグサ

部位等 根

備考

学名 (科名) *Scrophularia ningpoensis* Hemsl. (Scrophulariaceae) ゴマノハグサ科

其原植物和名等 スクロフラリア・ニンポエンシス

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

配合処方：加味温胆湯 (1 処方)

毒性データ (LD50等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

ningposides A-C, sibirioside A, cistanoside D, angoroside C, acteoside, decaffeoylacteoside, cistanoside F, ningpogenin, ningpogosides A and B, 8-O-feruloylharpagide, 8-O-(2-hydroxycinnamoyl)harpagide, 6-O- α -D-galactopyranosyl-harpagoside,

主要な生理活性

ゲンジンの浸剤、煎剤、エタノールエキスはネコ、ウサギなどの麻酔動物に対し血圧降下作用が認められ、その作用は煎剤が最も強い。ゲンジンは解毒、解熱、消炎薬として口渇、失眠、潮熱、盗汗、咽頭腫瘍、でき物、便秘などに用いられる。

重要文献

- 1) Y-M. Li, S-H. Jiang, W-Y. Gao, D-Y. Zhu : *Phytochemistry*, **54**, 923-925 (2000)
- 2) Y-M. Li, S-H. Jiang, W-Y. Gao, D-Y. Zhu : *Phytochemistry*, **50**, 101-104 (1999)
- 3) J. Qian, D. Hunkler, H. Rimpler : *Phytochemistry*, **31**, 905-911 (1992)
- 4) 新訂牧野和漢薬草大図鑑 : 481

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載

評価:B

アルカロイド等の成分は含有されていないが、局外生規に収載され、漢方処方にも配合されていることから専ら医薬品と考えられる。